

平成22年度 一般会計 予算見積 事業別概要書(当初)

款	9. 教育費	事業名	3. 教育センター事業活動費				所長	
項	1. 教育総務費	細事業名					指導主事	
目	4. 教育センター費	担当課・係	教育センター (執行課: 教育センター)				担当	
							連絡先	

予算分析	臨時経費	継続事業	単独事業	(単位: 千円)						
	(歳入)	(歳出)	財源内訳							一般財源
要求額	0	3,141	要 求							3,141
決定額			決 定							

実施計画の内容	(実施計画における事業の概要)	施 策	英知を伝え、心豊かに明日を育むまちづくり / 学校で楽しく安心して学べるまちづくり / 教育センターで学習状況調査等を実施します。								
	【学習状況調査の作成に関する業務】	施策体系コード	03 - 02 - 01 - 10 - 10			事業番号	240 - 1				
	・佐倉市内小中学生の学習状況の現状と課題を把握し、児童生徒の学力向上を目指した指導法の工夫改善を図るため、佐倉市独自の学習状況調査を実施する。	総事業費	4,207千円					事業期間	平成18年度～平成22年度		
	【佐倉学道徳副読本の作成に関する業務】	年度別事業費	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度				
	・佐倉市内小中学生が、道徳的価値及び人間としての生き方について自覚を深められるよう、佐倉ゆかりの先覚者を教材とした佐倉市独自の道徳副読本を作成する。	420	420	488	1,376	3,171					

(事業実施に関する根拠法令)
佐倉市教育センター設置条例

< 事業に関する説明 >

<p>(事業の説明)</p> <p>・佐倉市教育ビジョン推進計画に基づき、学習指導要領の趣旨を生かした特色あるカリキュラムの編成や、学力向上を図るための指導法の工夫など、学校教育における教育課題に関する調査・研究を行う。</p> <p>・新学習指導要領に示された、先人の伝記や文化などを題材とした教材の開発や活用についての内容をふまえ、佐倉学道徳副読本編集委員会を開催し、佐倉の先覚者を教材とする道徳副読本を作成する。</p>	<p>(事業の目的)</p> <p>・市内小中学校の児童生徒の基礎学力の定着状況に関する調査を実施し、集計・分析・考察を行うことで、各学校が指導法の工夫改善を図るための資料を得る。</p> <p>・市内小中学校の児童生徒が道徳的価値に迫り、人間としての生き方について考えを深められるよう、道徳指導の工夫改善を図る。</p>	<p>(事業の効果)</p> <p>・市内小中学校の児童生徒の基礎学力の定着状況を的確に把握することにより、学力向上を目指した指導法の工夫改善に関する各学校の取組に対して、適切な指導・助言ができる。また、経年変化を分析することにより、佐倉市の特色を生かした教育を推進するための資料を得ることができる。</p> <p>・佐倉の先覚者を教材とした道徳副読本を活用した授業を行うことで、児童生徒が道徳的価値や人間としての生き方に迫ることができる。</p>
<p>(事業実施上の問題点)</p> <p>・佐倉市学習状況調査は、7回目となり定着が図られている。そのため、各学校における基礎学力向上のための取組も充実し、児童生徒の基礎学力も向上してきた。今後は、基礎的な内容だけでなく、思考力・活用力や表現力を問う問題も取り入れることについて、検討する必要がある。</p>	<p>(前年度からの見直し点)</p> <p>・学習状況調査は、基礎学力定着を目的に、国語と算数・数学、英語の調査を実施している。児童生徒の学習に関する意識調査、教諭等の学習指導に関する調査の内容の見直しを図った。</p> <p>・佐倉の先覚者を教材化し、道徳の副読本としての資料を作成している。また、研究校を中心に授業実践をととして、資料の内容の改善を図っている。</p>	<p>(見積についての特記事項)</p> <p>・平成22年度末に小学校低学年版、小学校高学年版、中学校版の道徳副読本を完成し、市内全小中学校に配付し、郷土佐倉への愛着を育み、社会に貢献できる児童生徒を育成する礎の一つとする。</p>